

日退教通信

No. 375

2018.1

日本退職教職員協議会

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館5F
発行責任者 竹田邦明
TEL 03(5275)2197 FAX 03(5275)2081
Email nittaikyoo@gmail.com 〒ホームページURL http://www.nittaikyoo.com

正念場の今年、平和を守り、未来へつなごう



西澤 清 会長

日本退職教職員協議会

会長 西澤 清

激動の世界です。今まで軍事・経済でも一極支配で世界に君臨してきたアメリカの力が衰え、世界の覇権の構造が変わろうとしています。IMFの予想では、今年までの先進国平均GDPが世界の59%、新興国・発展途上国が41%を占めていましたが、これが今年逆転するといわれています。中国の経済成長は既にアメリカを超えています。その中でアメリカのアジア基軸政策は、軍事面で緊張をもたらしています。さらに、トランプの「エルサレム」首都発言は、パレスチナ問題にも火をつけ

ました。「トウキョウデイデスの罨^{*}」に言及し、戦争の危機を訴える向きもあります。日本政府が「平和を維持する」という毅然とした方針を持たない今、国民は、漠然とした不安の中に置かれています。今年が戊辰戦争から150年目です。100年目(1968年)に政府は、明治新政府の偉業を高く評価する「明治100年記念式典」を10月23日に行い、公務員に休みを与え、学校を休業して子どもたちに「明治維新」の意義を説明するように強要しました。

その後は、元号法制化や「日の丸・君が代」の強制など反動化が進んでいきました。もちろん、私たちは、休業を拒否し平常通りの授業を行いました。さて、「天皇の交替」と重なる今年から来年にかけてはどうでしょうか。

安倍政権の憲法改悪の動きも急になり来年の参議院選挙

おわびと訂正
第374号の埼玉退教・関口康夫さんの文章が途中で切れていましたので、お詫びをして3ページに掲載します。

をにらんで、「国民投票」も予想されます。世界と日本の将来を大きくかえる狭間の年になるかもしれません。
私たちは、今まで掲げてきた「平和憲法を守る」「脱原発」「経済格差の解消」「社会保障の充実」などの運動を力強く進め、会員のつながりをさ
らに強め、現退一致で仲間を増やし、自らの力で政治を変え、子どもが未来に希望を託せる平和な社会を実現している
こうではありませんか。
※トウキョウデイデスの罨^{II}
「戦争の原因は、富栄誉・恐怖。覇権の交替時に戦争が起きる」というもの。

「安倍9条改憲NO!憲法を生かす全国統一3000万署名」にとりくみましょう!

第48回総選挙では、残念ながら与党自公に3分の2以上の議席を許してしまいました。安倍首相は意図的に国難を強調し、更に明治150年や新天皇即位なども巧みに関連させながら憲法を抜本的に改悪しようとしています。

私たちは、国民主権の基本原則によって、安倍政権に改憲発議をさせないため、圧倒的多数で3000万署名(一人5筆)をやり抜きましょう! 集約日は、3月16日です。(指示17-40)

第24回五者合同学習会報告

講演Ⅰ「徳島県教組襲撃事件裁判を闘って」

富田真由美

日教組組織拡大オグナイザー、元徳島県教組書記長



に明らかにする。最後は、ヘイトが表現の自由か否かを問うこと。

事の発端は、厳しい教育環境にある朝鮮学校を日教組傘下の組合として、見過ごせないとして、微々たる

2010年4月に在特会による徳島県教組襲撃。その後の日教組、地域の労組、様々な支援団体が寒い時も暑い時も陰に陽に支えられて闘われた6年半に及ぶヘイトクライムへの裁判闘争を報告する。今、大義なき解散の下での総選挙運動の真つただ中のその構図は新自由主義対リベラルですが、この裁判も同じである。四国の小さな都市の組合への理不尽な攻撃への裁判を通しての反撃の目的は、第1に、人間の尊厳を取り戻す第2に在特会の朝鮮学校へのヘイトクライムを世の中

財政援助をしたことに対し、10数名の在特会が突然、9坪の組合書記局に乱入し、書類を荒らし、拡声器を通して罵詈雑言、更には、サイレンを鳴らしながら、「公務員には肖像権ナシ」との暴言を吐き、無断撮影。翌日には、威力業務妨害ギリギリの13分間の犯罪行為をニコニコ動画にアップした。そこには、悪意に満ちた「書き込み」。相次ぐ、嫌がらせの電話が殺到。現場に直行した警察官は、襲撃犯を背にしての対応、そして、市民団体に對しては「警察は中立の立場」には驚く。

でも、人間的対応に終始した自分には誇りを持つ。しかし、動画が拡散すること、警察、弁護士が告訴を！と態度が急変。1週間後告訴する。

告訴に対して1週間後、県庁前（私の住居近く）で在特会が私を名指しで抗議。教委への「退職強要」行動など、1時間に及ぶヘイト行動。恐怖に慄いていた。しかし、組合業務のために、サンングラス、帽子、マスクを付け出勤。

このヘイト行動は、3回の京都朝鮮学校の延長線であると認識。つまり、在特会による朝鮮学校差別事件だ。事件から5か月後7名逮捕（6名起訴）。我々は組織的威力業務妨害、建造物侵入、名誉棄損の3点で告訴。しかし、検察は「組織的」と名誉棄損を省く形で徳島・京都での刑事裁判となる。6名が有罪判決だが、許せないのは、主犯格の2人が逮捕されなかったこと。2つには、裁判の中で、在特会は「愛国無罪」とばかりに、反省ゼロ。最後は、名誉棄損が裁判の組上に載

らなかったことから、11年7月検察審査会へ不服申し立て。翌年6月、審査会は①被害感情も峻烈を極める②反省の態度がない③再犯の可能性が高いとの理由から5・4%の狭き門を突破し、主犯格2人の「不起訴不当」の議決。案の定この2人は、その後ロート製薬事件を起こし、実刑判決となる。検察は0・8%の「針の駱駝」を潜り抜けて起訴。しかし、それは、略式起訴（50万円以下の罰金）で一件落着を図るも、最終的には起訴となった（除く名誉棄損）。

13年12月の裁判の結果は、各々20万、30万の罰金刑。当然、反省皆無。愕然となり、ネット上での私への非難攻撃の嵐そして私はPTSD症状発生。そんな中、京都朝鮮学校襲撃事件での民事裁判のアボジ、オモニたちとの出会いから、民事裁判を闘う勇気を貰い提訴へ（13年8月）。しかし、15年3月の徳島地裁判決は「人種差別思想」に基づく「行動ではない」と。愕然としたが、「京都判決を京

都だけで終わらせない」の声をバックに私は、「人生をかけて闘う」と高裁への控訴を決意（15年8月から4回口頭弁論）。

毎回、全国の支援者が傍聴席を満席し、激励を受ける中、16年4月25日徳島地裁判決を覆す、歴史的判決が出された。1つは、在特会の行動は、人種差別であり、同時に女性差別であり、リンチ行為であると。2つには、政治的行為に名を借りた行為であり、名誉棄損に値する。最後に、「真実を見抜き、差別を許さない」社会を、ぶれずに、地に足を付けて共に頑張りましょう。

闘争カンパ

3月末までに

改憲の日のカンパを、憲法改正の日のカンパとして、九州・北九州など、各地の闘争カンパに組み込んでいます。まだ、是非、ご協力をお願いします。

講演Ⅱ「憲法改正と、人権・平和・教育」

志田陽子 武威野美術大学教授



私の勤め先は武威野美術大学です。美術大学の学生も美術の教員になりたい希望者はいますので、教職課程憲法を教えています。

内閣が閣議決定により、集団的自衛権を行って以来、教育現場で、平和教育を大切にしている学校教育が大変ややこしい立場に置かれています。憲法「改正」が、今年の5月3日に安倍総理が単独で発言し、9条1項、2項はそのままで、3項を追加するという案で、「自衛隊の明記」

というものです。

2015年12月解散総選挙が行われ、安保関連法の改正、実質的に憲法改正が、その後起きてしまいました。

憲法9条というのは、国家が人間の権利を守る、平和を守るときに、軍事的手段はとりませんと、国が自国民と他国民にも約束するという条文です。

日本の議会制民主主義が形骸化し、後戻りができなくなる可能性があるので、大変多くの人が警鐘を鳴らしています。今、実質的には、憲法改正が先取りされてしまったように見える安保法制の内容変更によって、多くの教育者や研究者が、自分に課せられている職責と自分の教育者としての良心、一市民とし

ての良心、これらが緊張関係に立ったり、不安になりながら、どう納めていったらいいか難しい立場に立たされている人が大変増えているように思います。

審議、議決された安保関連法案の内容が、これまで考えられてきた憲法教育、平和教育とかけ離れているので、考えられてきたことを、語ろうとする教員をおびやかすという場面が出てきました。もう一つ重要な問題は、軍事研究への誘導が大変強

くなってきました。

理系の大学の研究者たちは、研究費を獲得するのは大変で、物理学、そういう方面の人たちは何千万単位の研究費をとれないと、なかなか研究が進みません。軍事研究をやりますという、理由があれば、潤沢な研究費が入る状況にあるので、それぞれ大学で議論しなければいけないテーマになっていきます。

憲法25条「最低限度」の文化的生活という条文があります。同じく

26条「義務教育」、社会権を定めています。

国としては、よりよい福祉国家を実現することに、やれるなら、やりたいわけだけど、理想を権利としてかかえると、できないかもしれないので、最低ラインは定めています。私たちは主権者として憲法改正は、国民投票で意思表示ができる、その権利が保障されています。私達主権者は憲法改正の際に、国民投票に参加する権利を持っています。

第3分科会「福祉・文化・組織」 (2)「文化展『比企野』の活動について」



関口康夫さん
(埼玉退)

170名強の退教の東松山市を中心とする比企支部の27回の文化展(6日間)

を報告する。退職後の第2の長い人生を、支部として文化活動に取り組もうと1991年に公民館からスタート。絵画、写真、陶芸など10数部門で展開中。キャッチフレーズは「ヘタでいい」。その結果、日常的な同好会が誕生。人集め

関口 康夫 埼玉退教

として、大手新聞、自治体広報版で紹介。来館者には山野草をお土産にすること、来客数を増やした。更に、教育長と交渉する中、交通至便な場所を確保する。課題は、会員数の問題、会員の高齢化、固定化。

第4回東アジア海外研修旅行報告

2017年9月25日～28日

今回は44名の参加でした。大連外国語大学でのシンポジウムでは、日本側から草野秀一さん（足立区）、池田正弘さん（西尾市）、川口清さん（北九州市）、横山滋さん（川崎市）、柴田勉春さん（葛飾区）、本村富美子さん（中野区）の6名が発言しました。詳細はアンケート集にあります。

このシンポで、中国側は「日

本の野望が、日清・日露・満州そして日中戦争を引き起こしたが、この流れを断ち切つて日中友好の歴史を目指すべきだ」「旅順の虐殺は、その後の南京大虐殺につながつた」「中日が協力しないとアジアに将来はない」「日本は、アジアの一員であることを認識し、過去の戦争責任を認め、被害者の訴えに応えることが

語授業参観と学生達との楽しい交流と印象に残る旅でした。参加者から

青梅市の藤田たけ子さん

出発前に横山滋さんの「日本の近代化を検証することの意義」を拝読しました。同感です。「戦争できる国づくり」が着々と進んでいます。日本人の多くが戦争をやりたいがっているのでしょうか。「教子を戦場に送るな」というスローガンには、やはり、加害の歴史を学ぶことが抜けていたんだと、今になって、私も思います。「旅順虐殺がなかったら、南京虐殺もなかったら」とか、「日本のアイデンティティの危機ではないか」「木戸孝允、福沢諭吉……」シンポジウムを通して考えさせられること、学ばなくてはならないことなどありました。

研修旅行は、内容豊富でついで行くのがやっとなのですが参加できてよかったです。大連外国語大学での授業参観や、わずかな時間でしたがキラキラしている学生たちとの交流も楽しかったです。みなさま、ありがとうございました。



大連 旧大和ホテル前にて

◆編集後記◆

神奈川県茅ヶ崎市に、かつて「南湖院」という結核療養施設があり、それには国木田独歩や平塚らいてうも関係していたという断片知識は持っていた。その南湖院の一部が市に寄贈され、庭園として解放されたこと知り、出かけてみて俄然興味を持った。「南湖院」の変遷が近代日本の歴史のうねりをそのまま感じさせてくれるからである。

創設者高田畊安は1861年生まれ。兄を結核で失ったことをきっかけに新島襄と親交を結び、洗礼を受ける。帝国大学医学科を卒業した後、勝海舟の孫・疋田輝子と結婚。1909年「南湖院」を茅ヶ崎に開設。最初の入院患者は勝海舟夫人である。

先進的な水洗トイレ、汚水浄化装置を備え、プールや日光浴場、売店、理髪店と生活に必要な物がすべて揃っていた「南湖院」は理想的な療養施設で、療養には気象が大きく関わるからと気象測候所さえあった。「東洋一」と称され、全国の医学関係者が見学に訪れ、敷地は最大時五万坪にも及ぶ。

しかし1940年の刊行物「南湖院一覽」が不敬罪で頒布禁止になり、畊安は1945年2月、83歳で死去。すぐさま海軍に全面的に接収。敗戦後は米軍に接収。1957年に返還されるも病院としての機能が戻ることはなかった……。

「南湖院記念庭園」に出かけた日は小春日和であった。5万坪あった敷地も北は住宅地、西は県立高校、東は中学校、海岸続きであった南は国道134号線によって分断され昔の面影はない。第一病舎と旧院長室そして高田畊安の碑が残っているだけだ。グラウンドから塀越しに聞こえてくる賑やかな高校生の声を泉下の畊安はどう聞いているだろうか。

(R)